

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 23, No. 1 神奈川県立生命の星・地球博物館 Mar., 2017



モンガラカワハギ

Balistoides conspicillum (Bloch & Schneider, 1801)

写真：KPM-NR 175155A, Nov. 5, 2016,
新江ノ島水族館水槽，
崎山直夫撮影

樋口理紗（新江ノ島水族館）
瀬能 宏（当館学芸員）

2016 年 11 月 3 日、相模湾の七里ヶ浜沖水深 25 m 付近において、モンガラカワハギ（フグ目モンガラカワハギ科）が、カワハギ釣りの遊漁船で釣獲されました。この個体は体長 25 cm ほどの成魚で、遊漁船の方を通じて新江ノ島水族館へ譲渡され、飼育展示に供されました。

本種は、岩手県を北限とするインド・西太平洋の亜熱帯から熱帯にかけて広く分布し、本来はサンゴ礁の浅所に生息しますが、今回の個体は、やや深い砂地に岩が点在する場所から得られました。

相模湾からの文献上の記録は、幼魚

もしくは成長段階が不明な 4 例しかありません。魚類写真資料データベースには、城ヶ崎海岸で記録された 4 例の画像が登録されていますが、すべて幼魚で、過去に確実な成魚の記録はありませんでした。

今回記録された成魚は、そのサイズや出現時期から前年以前に黒潮による分散の結果、相模湾に着底し、温帯域での越冬に成功したと考えられます。

近年、海水温は上昇傾向にあり、地球温暖化と関連した海洋環境の変動や生物相の変化を把握するために、本種のような熱帯性魚類の越冬状況のモニタリングを継続する必要があるでしょう。